

ハツ場ダムについて

- ・前原国土交通大臣の主な発言 ……1
- ・6都県知事意見交換会後の主な発言 ……3
- ・鳩山総理大臣の国会答弁 ……4

前原国土交通大臣のダムに関する主な発言（10月16日以降）

○平成21年10月16日（定例会見：国土交通省）

- ・今日付で、1都5県の知事に、しかるべき時期に意見交換の場を持たせて頂きたい、政府としての立場を説明をさせて頂きたいという手紙を出させて頂いた。
- ・まずは（中止に至った）経緯についてご説明をさせて頂くということになるうかと思う。できるだけしっかりとしたご説明ができるようには、させて頂きたい。

○平成21年10月19日（ぶらさがり）

- ・（中止の白紙撤回を求める共同声明について）内容を精査して判断したい。
- ・（1都5県知事と）しかるべき時期にお会いしたいと考えている。
- ・（ハツ場ダム建設中止について）今までの考え方は変わらない。

○平成21年10月27日（定例会見：国土交通省）

- ・マニフェストに掲げた基本的な考え方は堅持しつつも、ハツ場ダムについては、他のダムと同様に検証することを地元の人々に提案させて頂く。
- ・地元との意見交換が出来るような状況をつくり、「出来るだけダムに頼らない治水」というものを理解頂くきっかけをつくりたい。
- ・予断を持って再検証するわけではない。再検証した結果として、色々な議論は出てくる可能性はあると認識。
- ・予算編成の段階で、どういったダムを凍結するか、継続するかを決める必要がある。
- ・ハツ場ダムも含めて、凍結する事業について、どの様なタイムスケジュールで再検証を行っていくかも重要。
- ・凍結すると決めたものを、ピーク流量のあり方も含めて、再検証する。
- ・専門家のチームを立ち上げ、まず基準作りをやっていただく。

前原国土交通大臣のダムに関する主な発言（10月16日以降）

○平成21年10月27日（ハッ場ダム関係1都5県知事との話し合い）

- ・徹底的な情報公開の下、予断を持たない、アリバイづくりではない検証をやって、最終的な結論を得る。
- ・再検証の過程で、代替案もきちんと示し、「できるだけダムによらない治水」への理解を得ていきたい。
- ・これまでの科学的根拠は国交省河川局がつくった資料。検証において、それには乗らない。
- ・この流れの中で、基本高水のあり方、水利権行政のあり方も見直したいと考えている。
- ・当然、知事の皆様にもご納得いただけるものでなければならぬし、今後相談していきたい。

○平成21年10月29日（国会：代表質問答弁）

- ・少子化対策や教育、子育て或いは社会保障等にしっかりとお金を使っていかなければならない。そういった制約要因を考え、公共投資は減らしていかざるをえない。
- ・ダムをつくり続けるということは、新たな公共事業をつくり続けるということにもなる。その意味で、あらゆる観点から検証し、その入り口として、川辺川ダム、ハッ場ダムの中止をマニフェストに入れた。
- ・中止を決めたダム以外のものについても、再検証をしっかりと行うなかで、地元の方々との話し合いをしっかりと行いたい。
- ・今までの政権では、公共事業は一度決めたら止まらなかったが、我々は検証して止めるものは止める。止めた場合の地元の補償はしっかりとやっていく。

6都県知事意見交換会後の主な発言

(新聞報道)

発言者	発言主旨	備考
大澤 群馬県知事	<p>■大臣と話す機会があったのは有意義だったが、大臣が目指す方向性はまだあいまいだった。ただ、検証するという方向性を出したのは大きな方向転換だと思う。大臣と地元住民との意見交換を実現するには、中止撤回しかない。</p>	H21.10.28 朝日新聞：群馬
上田 埼玉県知事	<p>■なぜ中止になったのかを資料で出してほしい。地元住民は、年内に青写真を示してもらわないと正月も越せない。ダム湖に代わる青写真を一日も早く出す使命があることを大臣にはもっと意識してほしい。</p> <p>■国は治水、利水の両面で我々を脅し、事業に参画させた。大臣には説明責任を果たしてほしい。</p>	H21.10.28 毎日新聞：埼玉
橋本 茨城県知事	<p>■再検証した結果、中止の中止もあるとしてくれないと、何のための再検証なのかわからない。</p>	H21.10.28 朝日新聞：群馬
森田 千葉県知事	<p>■話せたのはよかつたが、いつまでに何をどうするか明確になっていない。ハツ場にしても空港にしても急にドーンと来るのだけはやめてほしい。地方は訳が分からなくなる。</p>	H21.10.28 朝日新聞：群馬
石原 東京都知事	<p>■(前原大臣の発言は)最初に比べるとトーンダウンした。徹底して検証すると言うが、なぜ中止を掲げたかがはつきりしない。</p> <p>「コンクリートから人へ」というのはよいが、結論が決まってしまう前に、代替案の根拠を説明させるのが知事の責任だと思う。</p> <p>■中止といきなり冒頭に掲げた論拠が何なのか、一向にはつきりしない。初めに言葉ありきた。</p>	H21.10.28 毎日新聞
福田 栃木県知事	<p>■大臣は再検証委員会を組織すると言っている。1都5県の知事が任命した人が入るならばいいが、それが許されないなら、知事および大臣の指名する者がいる検討会も二本立てでやっついていく必要がある。水利権の見直しという大きな問題に触れたが、できるのか。我々の意見を全きかないでトップダウンでやられてしまったら大変だ。</p> <p>■(再検証がダム)中止ありきならば、治水対策は住民が安心して生活できるような代替案が示されれば、それはそれでやむを得ない。</p> <p>他の都県が理解するかどうかの問題が残り、足並みをそろえることになる。</p>	H21.10.28 毎日新聞：栃木
高山 長野原町長	<p>■「建設中止ありき」の方針に比べれば前原氏の提案に一定の評価はできるが、ダム建設について白紙の状態でなければ地元として話し合いには応じられない。</p> <p>■(国交相の方針を)歩み寄ってきた。(地元住民との対話については)申し出があれば、何について話し合いたいのか示していただき、その上で会うか会わないか検討したい。</p>	H21.10.28 朝日新聞

○代表質問 (公明党・井上義久君)

平成21年10月28日(水) 15時50分頃 衆・本会議場

鳩山総理大臣

ハツ場ダム建設中止についてのお尋ねがございました。

私も政権交代の選挙、マニフェスト選挙と位置づけ戦ってまいりました。

マニフェストの中で、国民の皆様方との契約との思いで、政権交代をなし得た以上、その約束をいたしました一つ一つの事業に対して、四年間で着実に実現をしてまいりたい。その一つとして、今回の『コンクリートから人へ』と、その象徴としてのハツ場ダム事業がございます。

私自身、昨年の夏、ハツ場ダムを視察してまいりました。ご案内のようにダムの目的は治水、利水さらに発電という目的であることは存じ上げておりますが、そのいずれに対しても、私が視察した結果においては、クエスチョンマークをつけざるを得ないそんな事業でありました。その時も住民の皆様方のご意見を色々と伺って来たことも事実でございます。これからも前原大臣を中心にしてこの問題の解決に向けて努力を申し上げてまいりたいと思えますが、私も『できるだけダムによらない治水』への政策転換を進めていかなければならないと思っております。その強い意志のもとで今後とも行動してまいることをお約束します。

○代表質問 (自由民主党・林芳正君)

平成21年10月29日(木) 11時10分～11時30分 参・本会議場

鳩山総理大臣

お尋ねの中にハツ場ダムの中止があったと言うことでございますが、これはハツ場ダムの中止に関しては、マニフェストに記述されていることであり、マニフェストは国民との間の直接の契約だと私達は考えておりまして、国民との契約に基づいて判断をしたということがあります。

なお、私は昨年の夏、ハツ場ダムを実際に視察して参ったところでございますが、そのハツ場ダムを視察していく中で、治水や利水、更には発電という意味があるのか、大きな疑問点を感じたことを、地域の住民の皆さんとも議論をする中で、そのような思いを持ったため、マニフェストの中に記載させて頂いたというところでございます。

○代表質問（公明党・山口那津男君）

平成21年10月30日（金）11時35分～11時40分

参・本会議場

鳩山総理大臣

マニフェストの政策の変更に関するご質問を頂きました。私も、国民は、新政権に対して何を望んでいるか、言うまでもありません。例えば民主党は、マニフェストでこれを国民の契約として戦ったわけでございます。従いまして、政権交代が行われて、当然のことながら、改革が断行される時には、従前の政策と異なる政策をとられることは十分考えられるわけでありまして、抜本的な解体を行うことも当然だと考えております。ある意味でそれが、民意だとも考えるわけでございます。ただ、同時にそれを強権的に強行するような手法を採用するつもりもありません。だからこそ、ハツ場ダムの建設中止の問題に関しまして、前原大臣を現場に赴かわせて頂いて、そして住民の声もすっかりと伺いたいとそうに考えたところがございます。これからも常に地域の皆様方と対話を続けながら、まずは国民の皆様方の声を大切にして、国民の皆様との契約を果たしていく、まさに、ハツ場ダムの建設中止もこのプロセスの中にあると考えております。

このハツ場ダムに係る政策決定プロセスと代替案についてのご質問であります。地元の方々が大変苦しんでおられる状況をやはり打開しなければならぬとの思いで、先般前原国土交通大臣が判断を持たずに、全国のダムと同様に、改めて検証を行うことを提案したわけであります。そのハツ場ダムの代替案につきましては、検証を行う過程において検討をして、まさに、前から申し上げておりますように、『コンクリートから人へ』という基本的な方針に沿って、出来るだけ代替案としてもダムによらない治水がどうあるべきか、こういう方向で政策転換を求めていく、そのような所存でございます。